



No. 21
平成24年9月18日
発行
多治見市教育研究所
URL:<http://www2.city.tajimi.gifu.jp/~kyoiku/x/>

本紙は多治見市教育研究所のホームページ上でもご覧いただけます。

卷頭言

ロンドン
オリンピックから
見えたもの

スポーツは素晴らしいと実感することばかりだが、今年のオリンピックにはその素晴らしいと、何となくすっきりしない気持ちと両方が入り混じっている。

すっきりしないのが、「なでしこ JAPAN」だ。ワールドカップの優勝までの戦いは中学生年代には手本となるような内容であった。女子の環境がまだ整わない中、男子の中に入つて一生懸命頑張ってきた彼女らの努力が大きく花開き、その姿に私も感動した。それ以来、おおいに騒がれ、テレビ番組には引っ張りだこ、テレビCMにも数多く出演し、メディアに頻繁に登場するようになった。こうやってもてはやされるようになると、スポーツへの強い気持ちとか競技へ熱い思いが何となく薄れていってしまい、厳しい勝負の世界では通用しなくなってしまうことがよくある。そんな心配をしていたが、最終的には、オリンピック準優勝という素晴らしい成績を収めた、そのことには心から拍手を送りたい。しかし、気になったのが最後の晴れ舞台である表彰式での姿だ。ピアスは競技の性質上禁止されているのでよしとして、茶髪は最近の若者には普通になってしまっているのでこれもとやかくは言うつもりはない。しかし、役員が銀メダルを胸にかけてくれようとしているのに、役員の顔をきちんと見ないで、横の仲間と顔を合わせて話をしたり、肩を組んでカメラに向かってピースサインをしたりする姿は、私には不快に感じた。彼女らの言う「最高の舞台で、最高の仲間と競技できることが幸せです」と言ったあの言葉の中から出てきた最高の舞台とは、競技している時だけでのことで、それ以外はどうでもよかったのだろうかと思ってしまった。最高の舞台で最高の仲

多治見市教育委員会
教育推進課長
丸山 近

間と最善の努力をした結果を、世界中の人々が讃えてくれるあの表彰の場は、彼女らにとっては最高の舞台ではないのだろうか。そう思うと、あのおちゃらけた姿は何とも情けない気がしてならなかった。

そんな中でも、新しい発見もあった。それが、アーチェリーの活躍だ。女子銅メダリストの蟹江選手は、あまりスポーツが得意ではなく、高等学校に入ったときに走るのがいやで、あまり走ることのないアーチェリーを始めたという。男子の個人総合で銀メダルを獲得した古川選手もアーチェリーを始めたのは高等学校からだ。競技歴わずか3年弱で国体で優勝し、5年でオリンピックに出場するまでになった。小さな頃から超一流を目指して、厳しさに耐えながら励んできた英才教育の選手とは少し違っている。あまりスポーツが得意でない子どもたちにも、オリンピックという舞台が少し身近に感じることができたのではないか。

いずれにせよ、世界の頂点に立つような選手には、子どものあこがれや手本であってほしいと願うのは、私だけではないと思う。

国や地域、家族、仲間の期待を背負って競技することのプレッシャーは計り知れないものがあり、そこにたどり着くまでの強い意志や絶え間ない努力、それを支えた多くの人々の思いを、是非子どもたちに伝えていきたい。

勿論能力もあろうが、自分の目標をもち、その目標に向かって努力し続けることの大切さや素晴らしさを、今回のオリンピックと絡めながら語っていきたい。

今年は、ぎふ清流国体が開かれる。子どもたちが一流の競技者の姿を見ることで、何かを感じ取ってほしい。

意欲的な追究と感動のある学習の創造～言語活動の充実を通して～

多治見市立精華小学校

1 本校の研究主題と研究の重点について

多治見市小中学校教育の方針の「子ども一人一人が自己充実感をもつ教育を推進する」を受け、昨年度より研究を進めてまいりました。また、東濃地区教育推進協議会より研修校として指定を受けて初年度の発表となります。

昨年度に引き続き、研究主題「意欲的な追究と感動のある学習の創造」を掲げて研究を進めてきました。昨年度の研究の成果として、児童は、既習内容と比較したり、体験して感じたりしたことを元に課題意識を高める姿が多く見られるようになってきました。また、課題として、仲間の考え方や思いと比較して、さらに活動を高めたり、考えを深めたりする力に弱さが見られます。研究主題にある「意欲的な追究」「感動のある学習」に迫るために、知識や技能が与えられたものではなく、児童が自ら生み出して獲得したものであったり、なんとなくわかったのではなく「なるほど。わかった。」というものであったりする必要があると考えました。

そこで、本年度は改善を図る手立てとして、「言語活動の充実を通して」をサブテーマとしました。児童の思考力・判断力・表現力を高めるためには、言語活動を充実させることが必要だと考えたからです。その際、言語活動は目的ではなく、あくまでもそれぞれの教科の授業のねらいを達成するための手段であることを全教科確認しながら研究実践を深めてまいりました。また、言語活動の場を設定するのみならず、学習の理解を確かなものにするために、「なぜそうなるのか。なぜ、そのように考えたのか。どこに、その考え方の根拠があるのか。」など、仲間の質問や意図的な教師の問い合わせにより、考えを深めていきます。「なんとなくわかった。」「なんとなく、できた。」ではなく、「はっきりとわかった。」「しっかりと、できた。」を目指しています。

2 願う児童の姿について

主題にある「意欲的に追究する姿」や「感動する姿」を全教科で明らかにしました。「なぜだろう？」「～とちがうぞ！」「やってみたい。」「できるようになりたい。」というような疑問や願いをもつ姿や「自分は～だと思う。」「～を工夫できたぞ。」「他の子はどういうに考えたのかな。」などで自分で熱心に取り組んだり仲間と交流したりしながら高め・深め合う姿「なるほどそういうことだったんだ！」「きちんと説明できたぞ！」というような自分の成長や仲間との学びを振り返る姿を具体的に思い描き、願う児童の姿とし、実践をしています。

3 研究内容について

(1) 単元指導計画の工夫

単元出口までの課題意識がつながるように、単元を貫く課題や意識を設定し、児童が各時間でどのような意識をもつかを考え、単位時間のそれぞれの役割を明確にしています。

(2) 指導方法の工夫

意欲的に追究する姿をめざし、学ぶ意欲や課題意識を高める課題化の工夫をしました。また、教科の特性を踏まえたねらいに迫る言語活動の充実として、意図的な問い合わせを行っています。

(3) 評価の工夫について

感動を実感する姿を目指し、評価の工夫を行いました。自分や仲間の学びを振り返ることができる評価活動の工夫として、教師による価値付けや自分の学びを振り返ったり、仲間のよさを認めたりする評価活動の工夫をしています。

4 おわりに

児童の思いを大切にして、感動いっぱいの笑顔で授業が終わるよう、実践を進めてまいりました。拙い実践ではありますが、研究会に足を運んでいただけたら幸いです。

仲間との「対話」を通して考えを練り合い、深め合う授業をめざして

多治見市立滝呂小学校

【本校の研究の歩みと 主題設定の理由】

本校は、昨年度より2年間多治見市教育課題研究指定校として、研究をすすめてまいりました。

多治見市の教育課題は「子ども一人一人が自己充実感をもつ指導」です。どうすれば、一人一人が授業の中で「わかった。できるようになった。」「自分のものの見方や考え方方が深まった。」などの実感がもてるようになるかを明確にすることが求められています。

本校では、この教育課題を解決していくために、授業の中に「対話」を取り入れることを考えました。「対話」とは「自分の考えを仲間との練り合いを通して深めていく学習活動のことです。「対話」はあくまでも本時の課題を達成するための手段です。

「対話」を取り入れた理由は、平成21年度までの、生活科を軸にした教科指導の研究の中で、「児童の発信する力は育ってきたが、仲間の考えを聞いて反応したり、意見をやりとりしながら、さらに深めていったりする力に弱さがある。」という課題が残ったからでした。

また、日常生活においても、挨拶を返す児童が少ないことが課題となっており、もっと「言葉のキャッチボール」ができたらという思いがありました。「対話力」を伸ばすことは、子どもたちの「生きる力」を育てるにつながると考えています。

新学習指導要領でも各教科等の指導における「言語活動の充実」が重視されています。発表会当日は、「対話」を通じた課題解決学習を、教師が各教科で創意工夫している過程を見ていただけれどありがたいです。

【研究内容】

(1)各時間のねらいの明確化と「対話」の位置付け

- ・各教科における「対話」のねらいを明確にする。

- ・指導計画の各時間のねらいを明確にし、「対話」の位置付けを考える。
- ・「対話」を生み出す必然性のある課題を設定する。

(2)学習過程・学習方法の工夫

- ・学習過程の中に「対話」を仕組むことで、豊かな「気付き」や「工夫」を引き出し、仲間との学びを活かして、考えを練り合い、深め合えるように学習方法を工夫する。

(3)教師の指導・援助・評価の工夫

- ・児童が、自分や仲間の学びの良さを自覚し、さらに高めようとする気持ちをもてるよう教師の指導・援助・評価の工夫をする。

【今年度の実践における留意点】

- (1) 1時間の授業に取り入れる「対話」のねらいを明確にし、児童の発達段階をふまえて、形態（ペア・グループ・全体）を考える。
- (2) 教師が児童の発言を聞き分ける力を身につけ、児童の考えを整理したり、さらに考えを深める発問をしたりする。
- (3) 児童が、自分や仲間の学びの良さを自覚し、さらに高めようとする気持ちをもてるよう、児童のどの発言が、考えを深めることになったのかを教師が聞き分けて評価する。

【おわりに】

この夏、ロンドンオリンピックで日本の「チーム力」が話題になりました。個人種目が多い水泳でも、何度もミーティングが行われたと選手達が語っていました。多くの「対話」を通して「仲間の絆」を深めたことが、気持ちを強くしたのだと思います。

本校の研究も「対話」が単なる「話し合い」ではなく「仲間のおかげで自分の考えが確かめられ、広がり深まった。」と仲間への感謝の気持ちへと、高まっていくことを願っています。

学ぶ喜びを実感できる授業づくり

多治見市立小泉中学校

1. 主題設定の理由

本校の生徒は、知識や技能を習得しようという意識のもと、前向きに学習に取り組むことができます。反面、自己の考えを自主的に仲間に発信して学び合い、考えを深めることに対しては苦手意識をもっています。そのため、仲間との学び合いの中で自己の変容を感じる場面が希薄であるとともに、「できた」「わかった」という実感を伴った学習になりにくい状況にあります。

本校では、学習を通して生徒が「できる」「わかる」という、自己の伸長や変容を実感することを学ぶ喜びと捉え、生徒一人一人が自信を持って学習に向かう姿をめざし、本主題を設定しました。

2. 願う生徒の姿

研究主題と生徒の実態を踏まえ、願う生徒の姿を以下のように考えています。

主体的に課題を解決していく中で、仲間と学びながら確かな学力を身に付け、それにより「できる・わかる」という学ぶ喜びを実感し、新たな問題に向け自信を持って意欲的に学習する姿

3. 研究仮説

各教科における学ぶ喜びを実感した姿を明確にし、その姿を具現するためには、教材や題材をより深く解釈して指導計画や構造図を作成し、生徒の知的好奇心を高める課題設定を行い、学び合いがより深まる教師の指導と、生徒が伸長や変容を実感できる評価を工夫改善していけば、仲間と学び合いながら「できる・わかる」という学ぶ喜びを実感することができる。

研究主題を具現するための要件として

「深い教材解釈による指導計画」「学び合いが深まる教師の指導」「自分の伸長や変容を実感できる評価」が考えられました。この3点を研究内容として、実践を進めました。

4. 研究内容

研究仮説における3点の要件を受け、研究内容(1)～(3)を設定し、実践を行っています。

(1)教材(題材)解釈の深化

- ①単元で付けたい力や習得と活用を意識した単元構成、単元を貫く課題、などを位置付けた単元構造図を作成する。
- ②評価規準を明確にした指導計画を作成する。
- ③知的好奇心を高め、必然性のある課題提示を工夫する。

(2)よりよい学び合いの創造

- ①学び合いを深める学習グループを編成する。
- ②日々の学習の様子をもとにして、支援計画を立てて授業に臨み、要支援生徒へ具体的な対応をする。
- ③支援表を活用して、生徒の知的好奇心を高める発問や切り返し、学び合いを組織化するための意図的な指名を行う。

(3)伸長や変容を実感できる工夫

- ①「できた」「わかった」を実感できる自己評価を工夫する。
- ②自己の伸長や変容を感じられる、仲間との相互評価や教師からの価値付けの仕方を工夫する。

連合生徒会と教師塾セミナー

第12回多治見市連合生徒会

8月9日(木)に議長校である小泉中学校にて、第12回連合生徒会が行われました。大きく二つの議題で話し合いをもちました。前半は、1月に行われた第11回連合生徒会で決定した「地域清掃」についての交流です。各中学校の生徒会が、半期にわたって活動してきた内容が発表されました。例えば、多治見中学校では、「ゴミ拾い登校、略してGHTの活動」についての報告がありました。火ばさみを貸し出し、登校時にゴミを拾い集める活動を生徒会、環境福祉委員が中心となって活動しました。南ヶ丘中学校では「地域清掃活動の写真や内容」の報告がありました。生徒会執行部が全校生徒へ案内を出し、地域を自分たちの手できれいにしようと活動しました。

後半は、議長校である小泉中学校からの提案を受け、さらに、白熱した討議が繰り広げられました。小泉中学校からは、「ボランティア活動をしても、いまいち参加率が上がらない。全員参加ができない」という話が出ました。「全員が参加できるキャンペーンや取り組みをしていきたいが他校の現状はどうか」という投げかけがありました。

意見交流をしていく中で、「参加率へのこだわり方」について、様々な意見が飛び交いました。「参加率を上げることが目的ではなく、活動の目的をもって活動していくことが大切だ」「100%の達成率、参加率はあくまで結果であり、やらされている感があつては、だめではないか」という意見も出されました。

意見は違うものの、どの生徒会も「多治見市のため」という視点は常にはずさないで語ついて話し合いはたいへん実のあるものとなりました。

まとめでは、「一人一人の意識を向上させることが大切」という結論に達し、後期の連合生徒会では、「意識向上のためにどのような活動を行ったか。また、その結果どのような効果または課題が見られたか」を話し合うこととなりました。



教師塾セミナー・得意セミナー開講



今年度も夏休みに教師塾セミナーを全17講座、得意セミナー(児童生徒向け講座)を14講座開講しました。ほとんどの講座は、市内の先生が講師となり、

これまで培ってきた優れた教育実践や得意分野をもとに講義をしていただきました。

受講した先生、児童生徒からも「たいへんよかったです」と多くの方から回答をもらい、満足のいく講座を開設できたのではないかと思ひます。今後、教師塾セミナーを受講された先生方には、講座内容を、自分自身の授業改善や勤務校へも伝達等をしていただけると、多治見の教育がさらに充実したものになるかと思います。

教師塾セミナー、得意セミナーで、講師をしていただいた先生方の感想には、「講師をしながら自分自身の実践を振り返ることができた」と書かれた先生もみえます。前向きな感想をいただけたことにうれしさを感じます。

また、セミナーのための物品購入、資料作成、各種打ち合わせ等を含めて、お忙しい中、ご準備いただき、本当にありがとうございました。

【受講生の声】

○教師塾セミナー

「社会科副読本を活用した社会科学習」

単元の組み立て方や1時間の授業の流れなど基本的なことから学ぶことができ、とても勉強になりました。資料を提示する時にどうしても児童がその資料を見て思ったことや考えたことをだせることを優先させてしまっていましたが、その資料から分かる事実をまずとらえさせることが大切だということが分かりました。9月からの授業をどうやって進めていくかを考えると楽しみになりました。

「保護者の支持を得る懇談会」

保護者の立場から周りの子どものことを聞くのが有意義という話が心に残りました。日常の小さな積み重ねが大事という認めが保護者にこんなところを見ていてくれているんだという信頼感につながるという話がなるほどと思いました。

○得意セミナー

「想いの伝わるポスターを描こう！」

最初は何を描こうか思いつかなかつたけど、先生がアドバイスをくれたので、ポスターを描くことができました。上手に描くことができたので、よかったです。



初任者の先生の紹介

教師として歩みはじめて①



「新たなスタート」

養正小学校 内田 有美

養正小学校に赴任し、数か月が過ぎました。

担任している3年生の子ども達は、仲間との関わりの中で日々成長しています。

自分の気持ちを言葉で伝えることの難しさや伝わった時の喜びを感じて一喜一憂する姿に接することが何度もありました。仲間の気持ちがわかると素直に認め合える素敵な子ども達から、人として大切なことを学ぶ毎日です。

また、多くの研修を受けさせていただく中で、これまで我流でおこなってきた授業を分析的に観て、ご指導いただいている。授業の中での自分の課題が多く見えてきました。

新たなスタートは、不安もありましたが、子ども達の笑顔に励まされたり、周りの先生方にご指導をいただいたりするなど、多くの支えによって少しずつ前進しています。このようなスタートが切れたことに感謝しております。



「教師になって」

小泉小学校 羽賀 浩平

4月から教師としての新生活がスタートして、最も強く感じたことは、子どもの心の純粋さです。教師としてまだ何もできない自分を毎日慕って「先生っ！」と呼んでくれる子、嫌なことをされて悲しい思いをしても「ごめんね。」の一言で相手を許すことのできる子、子どもの心ってなんていきれいなんだろうと驚くばかりです。しかし、そんな子どもだからこそ間違っていること、いけないことは、しっかりと指導していかなければなりません。自分では、間違いを正せない子どももいるからこそ、その場、時にあわせた指導が必要だということを痛感した4ヶ月でした。

教師の一言一言で良い方にも悪い方にも子どもは変わっていきます。自分の価値観を磨きながら、子どもと一緒に思いっきり笑って、怒って、泣いてよりよい人間に、そして教師に成長していきたいです。



「憧れの教師 1年生」

市之倉小学校 伊藤 理佐

憧れの教師となり、教壇に立ち始めて早5ヶ月が経ちました。クラスの子どもたちが入学ってきてから、あっという間に夏休みとなりました。

4月。子どもたちとの出会いは入学式でした。期待と不安を胸いっぱいに入學してきた子どもたちと同じように、私も1年生になりました。「先生、一緒に遊ぼう」「先生、昨日ね」と笑顔で話しかけてくれる子どもたち。温かく見守って下さる保護者の方々。そして何より、いつも側でアドバイスをくださる先生方。これまで、多くの方々に支えていただいたことを実感しました。

以前研修で、「学校はチーム」という言葉を聞きました。まさにその通りだと感じました。これから、私もチームの一員として、自分にできることを考え、子どもに寄り添うことのできる教師をめざし、日々精進していきたいです。



「滝呂小学校での5ヶ月」

滝呂小学校 櫻井 孝太

滝呂小学校に勤務して約5ヶ月が経ちました。小学校での勤務、担任として学級をもつことのどちらも初めての経験です。

4月、毎日、元気な姿で子どもたちの前に立ち、笑顔でいることが何よりも大事であると心に強く思ってきました。しかし、授業づくりや学級経営の難しさを感じ、余裕がなくなってくると笑顔を忘れてしまっている自分がいました。子どもたちの気になる部分を叱ってばかりいて、良い姿を褒める機会も随分減ってしまっていたように思います。

日々、子どもたちの良いところをたくさん見つけ、たくさん褒めることを大切にしながら笑顔で子どもたちに寄り添っていこうと改めて思っています。

初任者の先生の紹介

教師として歩みはじめて②



「1人の教師として
根本小学校 山田由香里

1人の教師として5ヶ月がたちました。振り返ってみると、本当にあつという間でとにかく突っ走ってきたような気がします。

この5ヶ月は、とても濃いものでした。嬉しいこと、楽しいこともたくさんありました。しかし、苦しいときの方が多かった気がします。その度に周りの先生方に助けられ、5ヶ月を過ごすことができました。周りに支えられて、自分の持ち味である「元気」だけは誰にも負けないように、自分なりに精一杯過ごしてきました。

しかし、まだまだ半人前にもなれていません。周り先生との差を感じています。先輩の先生方から学び吸収できるのは今だけです。失敗を恐れず、自分をもって、早く周りに信頼されるような1人の教師になれるように、精一杯頑張っていきたいと思います。



「4か月を終えて」
北栄小学校 鈴木 啓太

北栄小学校へ赴任して約5ヶ月。始めは何もわからず、うまくいかないことにだらけでした。悔しい思いをしたり、イライラしてしまったりする中で、表情が暗くなってしまう自分がいました。そんなとき、心の支えになったのは「子どもたちの表情」でした。子どもたちには一生懸命がんばる顔、できだとき見せる笑顔からたくさんのエネルギーをもらっています。そんな笑顔を見ると私も自然と笑顔になります。そうなると子どもたちもまた、笑顔で返してくれます。まだまだ力不足で、もっとこうすればよかったです。そんなところでは、と思う毎日です。そんなときに、どんなちょっとしたことであっても丁寧に教えてくださる周りの先生方には日々感謝でいっぱいです。今後も私自身、子どもたちと共に成長していき、子どもたちの最高の笑顔をもっともっと引き出せる教師になりたいと思います。



「はじめの一歩」
陶都中学校 仁張 真介

今年度がスタートして、5ヶ月が経ちました。

今年度は1年生の担任をしております。初めての学級担任ということもあり、4月当初から解らないことばかりですが、先輩の先生方に学級経営のイロハを教えて頂いたり、質問したりしながら、学級経営に力を入れて取り組んでいます。私は生徒たちに、自分がこうしてこの場におり、暮らしていくことは当たり前ではなく、周りにいる仲間がいるから、場所があるからだという「感謝」の気持ちを大切にしてもらいたいと願い、挨拶・掃除にこだわってきました。その中で、人・物を大切にする心が育つていて感じています。しかし、互いに高め合う、本当の意味での大切にし合う仲間になりきれていないので、行事をきっかけにしながら日常生活の中でこの仲間とやってきてよかったです。実感させていきたいです。

これからも生徒に寄り添いながら生徒と共に成長していきたいです。



「日々、成長」
陶都中学校 森 綾香

陶都中学校に赴任してからの5ヶ月間は、「日々、成長」の毎日です。保健体育の授業の中で、子どもたちに実感して欲しいことがあります。

1つ目は、「からだを動かすことの楽しさ」です。運動が苦手な子も、授業を通して、運動をすることの楽しさを実感し、「また、やりたい」と思うことができるよう、今後も、教材研究に努めています。

2つ目は、「仲間の大切さ」です。仲間との関わり合いの中で、「仲間がいるから頑張れる」、「やっぱり仲間っていいな」と仲間の大切さを実感して欲しいです。そのため、一人一人の仲間を大切にできるような、グループ形成、練習内容を今後も取り入れていきたいです。

毎時間、「仲間と共に成長する、仲間と共に楽しく運動する」の言葉を掲げながら授業を行い、子どもたちの意識は少しずつ高まっています。授業の中で、子どもたちに助けてもらうことはたくさんあり、子どもたちの頑張りや成長を見られることが一番の喜びとなっています。今後も、私自身も、子どもたちと一緒に「成長」できるように、力を尽くしていきたいです。

初任者の先生の紹介と初任者研修

教師として歩みはじめて③

教師になって
強く感じていること
多治見中学校 酒向宏子



多治見中学校に赴任して数ヶ月が経ちました。あつという間でしたが、一日一日が本当に充実した日々

でした。初めての学級担任として、不安や悩みもありました。しかし、周りの先生や保護者の方々に支えられ、また、何より子どもたちから毎日元気をもらいました。特に学級合唱では、目標に向かってみんなで取り組むことがなかなか上手くいかず、何度も学級で話し合って学年合唱コンクール本番を迎えるました。全員が精一杯歌う姿、その結果を受けて、次はもっとがんばりたいと目を輝かす姿が、担任として本当に嬉しかったです。

子どもたちが願いをもち、努力し、笑顔になる瞬間をたくさん見ることができます。今を本当に大切にしたいと思います。そして私自身、日々努力し、指導力につけていくくことが一番生徒たちのためになることだと強く感じています。

「生徒と共に」
小泉中学校 勝野 実夏



今年度から小泉中学校にお世話になり、校長先生はじめ、周りの先生方に助けていただきながら勤めています。

小泉中学校は5月に体育大会がありました。当日までの取り組みでは、生徒達が自主的に練習計画を立て、声を掛け合いながら練習する姿や、生徒会を中心に、各委員会が協力して準備する姿を見ることができました。日常の生活では、気づかないような生徒のがんばりや、心配りを感じることができ、とても充実した時間を過ごせました。

毎日とても忙しく、生徒を叱ることも多い日々ですが、学級全員で団結して何かを成し遂げた時、教師としてのやりがいを感じます。これからも謙虚な気持ちを忘れずに、生徒達と共に成長できるよう、励んでいきたいと思います。

生徒とともに
笠原中学校 上原 純



4月から笠原中学校に赴任し、1年生の担任をさせていただいております。初めての担任、不安もありながらスタートし、あつという間に5ヶ月が過ぎました。

34人と生活することは毎日が本当に新鮮で楽しいこともたくさんありますが、全員が同じ目標に向かって進むことができなかつたり、授業や様々な活動に対する意識の差があつたりと、担任として学級をまとめるこの難しさを改めて強く感じました。

そんな中で、多くの先生に支えられたりアドバイスをいただいたりしながら生活してきました。たくさんいただいたアドバイスの中でも、「とにかく自分が正しいと思うことを全力でやれば、生徒にも思いが伝わる」ということを意識して、今後も全力で生徒とともに成長していきたいです。

初任者研修「防災訓練」



今年度から「多治見市の安全・防災についての取組を理解するとともに訓練、視察を通して災害時に対応できる知識・技能を身に付ける」ことをねらいとした、初任者研修を行いました。

まず、企画防災課の塩崎さんより、H23年度台風15号の状況および東日本大震災の様子について話を聞きました。塩崎さんの「皆さんは教職員です。児童・生徒の命を守る義務があります。そのために、どうすればよいかを考えなければなりません」という言葉が印象的でした。続いて、「防災倉庫資機材運営訓練&炊き出し訓練」を行いました。学校防災倉庫を実際に開け、そこに入っている資材や機材、食料を確認し、炊き出し訓練を行いました。米の炊き方、お湯を沸かす機材の設置方法などを学び、実際に炊き出しを行いました。午後からは、DIG（災害図上訓練）を行いました。災害発生時にどのような対応をすればよいのか、地図をもとにグループごとに考えました。最後に、台風の被害を受けた場所へ移動し、当時の写真と比較することを通して、自然の恐ろしさを実感することができました。

初任者にとって忘ることのできない有意義な研修になったことだと思います。